

「地質学概論」

2019年度第4回目の実習にかえて・・・角間キャンパスの礫岩

「碎屑性堆積岩」は構成粒子の大きさにもとづき「礫岩(2mm<)」,「砂岩(1/16~2mm)」,「泥岩(<1/16mm)」に区分され,泥岩はさらに「シルト岩(1/256~1/16mm)」と「粘土岩(<1/256mm)」に区分される。また,それぞれの岩石を構成する粒子は,「礫」,「砂」,そして「泥」と呼ばれ,「泥」は「シルト」と「粘土」とにさらに区分される。

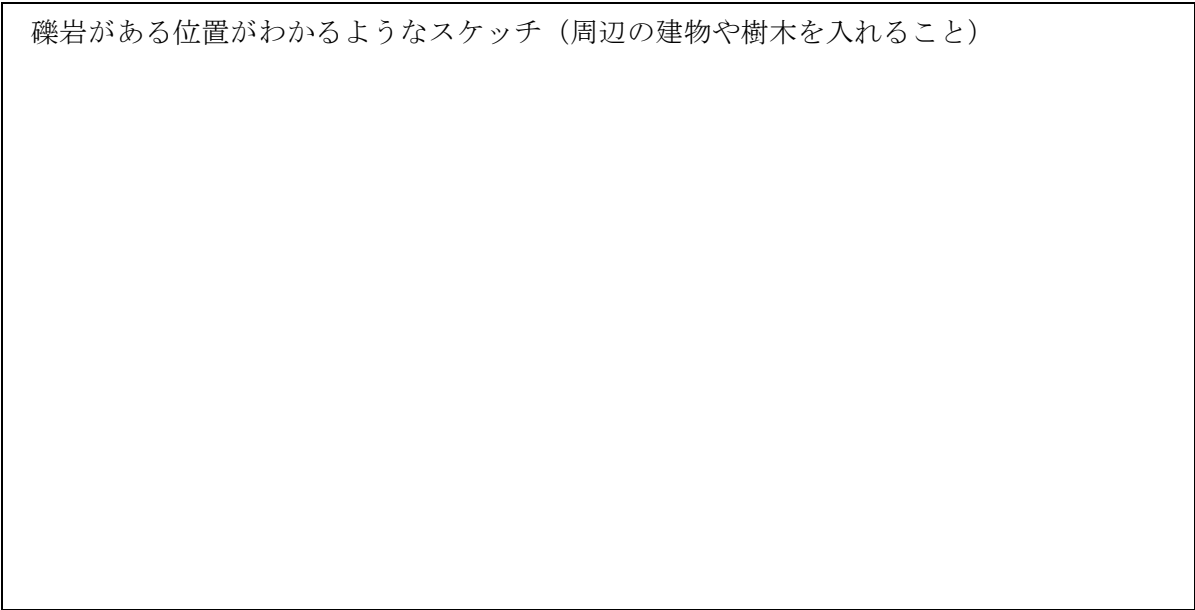
このような区分は単純に粒径のみにもとづいて便宜的になされたものではない。「砂」は石英や長石,黒雲母といった鉱物の単一粒子からなることが多い。「シルト」も鉱物の単一粒子からなることが普通であるが,砂とは水中での挙動(沈降速度など)が異なることで区分される。一方,「礫」は鉱物の集合体である岩石の破片であることが普通である。また,「粘土」は層状珪酸塩鉱物とよばれる特殊な鉱物(粘土鉱物)を主成分とするものである。

さて,角間キャンパスのあちこちで天然の岩石を観察することができる。とくに,文系学類や総合教育棟などがある北地区では,建造物の基礎や敷石,石垣,枯山水の岩石,記念碑やオブジェなどの装飾用としてそこそこで天然の岩石を見つけることができる。そこで,今回の実習に替えての課題レポートでは,角間キャンパス北地区の指定区域で天然の「礫岩」をさがしだしてもらいたい。みつけた「礫岩」のスケッチ(どのような位置にあるのかがわかるような全体図と,それを拡大した図)をとったうえで,その観察の結果を記述してもらいたい。

環日本海域環境研究センター 塚脇真二
Email: shinji@se.kanazawa-u.ac.jp

学年：	名列番号：	氏名：
-----	-------	-----

礫岩がある位置がわかるようなスケッチ（周辺の建物や樹木を入れること）

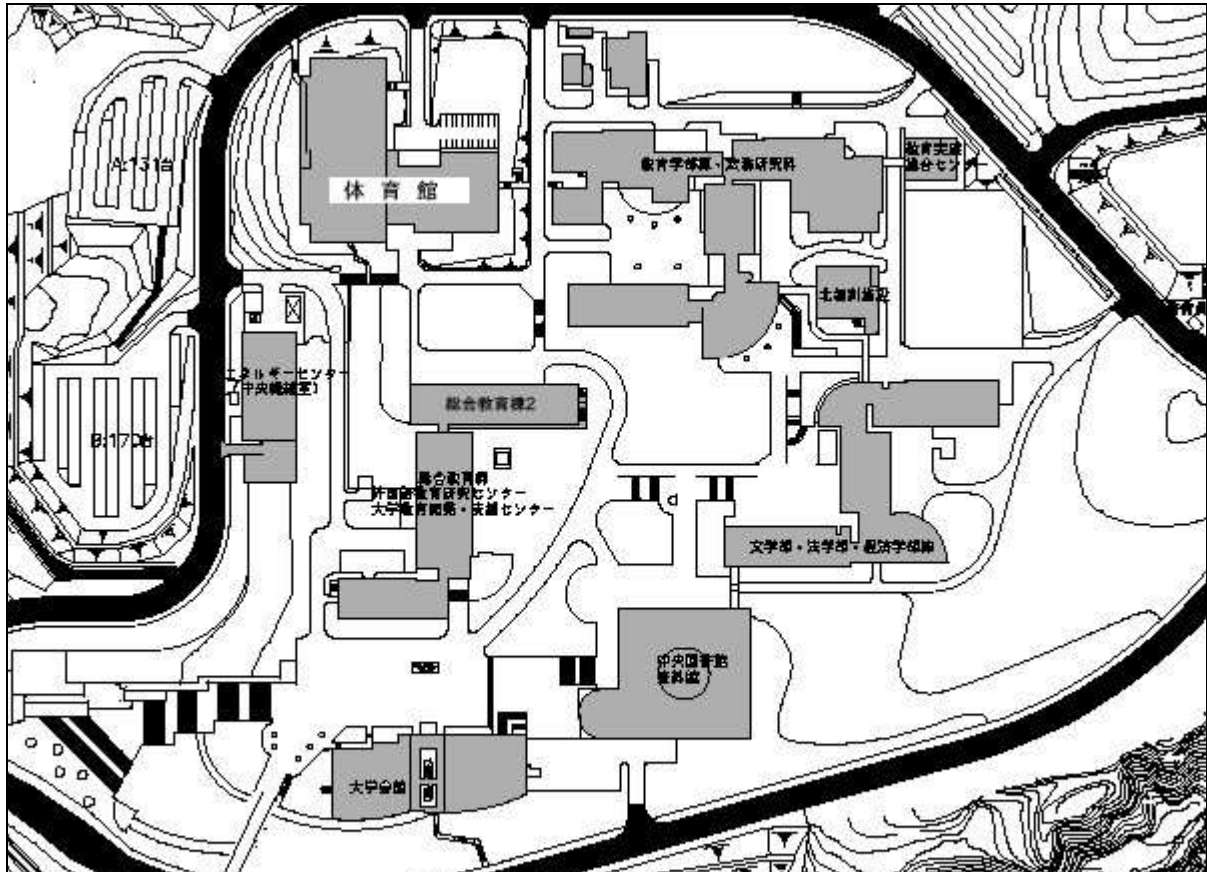


礫岩のスケッチ（どのような礫でできているのかに留意，礫の大きさ，形状，種類など）

記載 _____

※スケッチには大きさがわかるようなスケールを必ず記入すること

考察事項：気づいたことや感想など.



礫岩さがしの指定区域

課題レポートの作成にあたっての注意

1. 人通りが多いキャンパスの主要部なのでクマにもスズメバチにも会わないと思うが、友人などに会ってしまったらさりげなく無視すること。また、授業中の講義室近くでのおしゃべりはくれぐれもつつむこと。
2. 礫岩を観察するにあたっては、カナヅチなどで絶対に叩かないこと。こぶしで叩くくらいならば問題はない。落書きもしてはならない。
3. このレポートは次の授業（11月12日）の授業開始時に講義室で受け取る。